

協会からのお知らせ

.....「業務・システム最適化計画」策定研修のご案内.....

予算効率の高い簡素な政府の実現に向けITによる業務改革を推進するため本年2月のCIO連絡会議で府省横断的に取り組む、あるいは各府省において個別に取り組む最適化計画の策定対象となる72分野の業務・システムが選定されました。

このように、政府が推進する電子政府構築計画の実現に向け、EAを基礎とした「業務・システム最適化計画」が今年度より本格的に展開されますが、今後各府省が行うIT資源調達は「業務・システム最適化計画」に基づき行われることになると考えられます。

従ってこれに係る知識およびスキルを持った人材が受注企業側に存在することが強く求められています。本研修では政府の「業務・システム最適化計画策定指針」(ガイドライン)に基づき、機能分析、情報分析、環境分析についての知識・技術を体系的に習得することを目的に実施します。

日程(追加予定あり)

各回とも4日間、時間9:30~17:30

【3回目】

2004年7月27日(火)~7月30日(金)

【4回目】

2004年9月27日(月)~9月30日(木) 募集中

研修コース目標と内容

【コース目標】

- 電子政府構築計画に基づく、「業務・システム最適化計画策定指針(ガイドライン)第2版」の内容について習得します。
- 最適化計画の策定に必要な機能分析、情報分析、環境分析についての知識およびスキルを習得します。
- コース終了後修了証を発行致します。

研修内容予定(都合により一部変更あり)

	A M	P M
1 日 目	【業務・システム最適化計画について】 • 電子政府構築計画と業務・システム最適化計画の概要 • 業務・システム最適化計画策定指針(ガイドライン)について(総務省行政管理局)	【政策・業務体系(機能分析)】 • 機能構成図(DMM) • 機能情報関連図(DFD)
2 日 目	【政策・業務体系(機能分析)】 • 業務処理の組み替え	【政策・業務体系(情報分析)】 • 業務流れ図(WFA) • 情報抽象化表(DAM)
3 日 目	【政策・業務体系(情報分析)】 • 情報体系整理図(UMLクラス図)	【データ体系、適用処理体系、技術体系】 • 実体関連図(ERD) • 情報資産評価表(IEM)
4 日 目	【環境分析】 • 業務環境分析(SWOT分析)	【環境分析】 • 主要課題抽出 • 見直し方針

• 研修内容の詳細については当協会のホームページをご覧ください。 URL <http://www.nmda.or.jp>

協会からのお知らせ

.....「業務・システム最適化計画」策定研修のご案内.....

会 場

株式会社富士ゼロックス総合教育研究所・六本木
セミナールーム

- ・住所：〒106-0032 港区六本木3-1-1
ティーキューブ14階
- ・電話：03-5574-1431 FAX：03-5574-1500
- ・地図URL：<http://www.fxli.co.jp/company/access.html>
(営団地下鉄南北線「六本木一丁目駅」1番出口より地下通路直結)

主 催

財団法人ニューメディア開発協会

参加費

- 168,000円 (お一人様・税込)
- ・教材費込み / 1回分 (4日間)

定 員

36名(各回)

参加対象

- ・各府省が発注する業務・システム最適化計画策定作業の受注を目指す方。
- ・各府省の情報システム調達の受注を目指す方。

参加条件

情報システム企画、調達、開発についての経験・知識を有すること。

事前学習

「業務・システム最適化計画策定指針(ガイドライン)
(第2版平成16年2月10日)」を熟読して下さい。次の
URLよりダウンロードできます。
<http://www.e-gov.go.jp/doc/guideline.html>

申込締切

各回とも定員になり次第締切らせて頂きます。

申込方法

電子メールでお願いいたします。メールを受領後、
受講ご案内とご請求についてのメールを送ります。
お申し込みされた方が参加不可能な場合には、代
理の方の参加が可能です。但し、受講開始後の変
更は出来ません。必要記入内容は以下の通りで
す。

To : semin@nmda.or.jp宛

Subject : 「業務・システム最適化計画策定」研修
参加申込

- ・申し込みコースと希望順位(3回目、4回目の別と希
望順位)
- ・お名前(漢字とふりがな)
- ・会社・団体名
- ・所属役職
- ・住所：〒
- ・TEL番号、FAX番号
- ・電子メールアドレス
- ・請求書：必要・必要なし
- ・この研修を何で知りましたか(下記は記入例です)
ニューメディア開発協会賛助会員宛案内、メー
ルニュース、雑誌、新聞、インターネット検索、
知人の紹介、職場で紹介、当配布パンフレット、
その他(具体的にご記入ください)

お問い合わせ先

財団法人ニューメディア開発協会
e-ガバメント推進グループ

担当：山本勝己、飯田次男、松原伸幸、大久保貴世
〒108-0073 東京都港区三田1-4-28

三田国際ビル23階

Tel : 03-3457-0672 Fax : 03-3451-9604

E-mail : semin@nmda.or.jp

協会からのお知らせ

……… 非接触ICカード普及センター(CLIC)の活動について ………

発行室長 多湖和男

「非接触ICカード^(注1)普及センターCLIC(Contact-Less IC card deployment center)」は、当協会が平成15年5月1日に設立した非接触ICカードシステムの普及推進を行う組織です。「CLIC」では、平成16年度も継続して、次の業務を行っていきます。

- 公的分野を中心として利用される非接触ICカード^(注2)の発行
- ICカードとリーダライタとの互換性の検証
- ICカード応用システムに関する技術コンサルティング

1. 非接触ICカードの発行業務

市町村、法人等からの委託により、国際規格に準拠した非接触近接型ICカード(タイプB)の二次発行を行います。

住民基本台帳カードについては、平成15年度に発行委託を受けた市町村及び平成16年度合併予定の市町村を対象に受託発行を推進して行きます。

住民基本台帳カード以外の公的分野市場(例えば、情報家電、電子パスポート、身分証明書等)の開拓を推進して行きます。

2. 互換性検証業務

非接触ICカードを活用した複数の事業を連携するため、事業間の非接触ICカードとリーダライタとの新たな互換性検証(電波特性試験やクロステストによる機能試験)を、推進して行きます。また、新規検証ベンダの参加も推進して行きます。

3. 技術コンサルティング業務

非接触ICカード、リーダライタ、カード発行機などを導入する際の技術的な問題を解決するため、また、標準仕様の普及活動のために、これまで培った技術やノウハウを活用して、技術的なコンサルティングを行っています。

コンサルティングサービスの実施プロセス例は下記です。

- (1) 住基カード関連システムのリストアップ作業
- (2) 住基カード関連システムの現地調査
- (3) 地方公共団体様向け現状報告会開催

- (4) 住基カード関連システム互換性検証テストの実施
- (5) 地方公共団体向けコンサルティング作業
- (6) コールセンターサービス提供

(注1): 非接触ICカードとは

非接触ICカードは、カードリーダと接触することなしにデータの通信が行えるカードです。カード内部にはICチップと、カードリーダとの通信やカードへの電源供給を行うためのアンテナコイルが埋め込まれています。非接触ICカードの特長は、「カード表面全体に印刷できる。汚れ、ほこりなどに強い。リーダライタから数cm離れてデータ交換が可能」です。

(注2): 公的分野における非接触ICカード仕様について

政府では、「公的分野における非接触ICカードの普及に関する関係府省連絡会議」において、国民の利便性の向上、行政コストの削減を図るため、行政機関が発行するICカードに関して、一枚化が可能となるよう仕様を共通化することを基本原則としています。

また、技術仕様は、ISO/IEC14443タイプB非接触インタフェースを利用していくことで統一されていますので、今後の公的分野のICカードインフラは非接触型ICカード(タイプB)が標準となります。

協会からのお知らせ

..... 平成15年度主な成果報告書・資料等印刷物一覧
(在庫の有無、閲覧方法等については下記の電話番号へお問い合わせください)

1 開発関連

03-3457-0672

- 平成15年度 電源地域情報化推進モデル事業 報告書
- 平成15年度 電源地域情報化推進モデル事業 報告書 (別冊)
- 平成15年度電子政府行政情報化事業報告書 (手続のワンストップ化を実現するシステムに関する研究開発及び実証事業)
- インターネットプラットフォームサービスの調査・開発
- インターネット上のプライバシー保護技術(PET)に関する調査
- インターネット利用における諸問題解決策の調査・研究
- 情報システム調達モデル研究会 報告書 概要版)

2 推進関連

03-3457-0673

- 情報化推進基盤事業 (地域における情報化実態調査)
- (1) 公的分野における広域情報システムの運用モデルの構築及び実用化方策の調査研究
- (2) 携帯情報端末による歩行弱者向け施設案内誘導提供システムの運用モデル調査 - 高松市中央商店街の活性化に向けた歩行者ITS -
- (3) 医療・食分野を活用した官学産連携による総合的健康増進システムの運用モデル調査
- 「情報化フェスタ2004」開催報告書
- 中小規模卸売業共同受注システム事業の調査研究 - 地方地域商店街と中小規模卸売業における受発注業務の活性化に関する調査研究 -
- 個人カード不正使用防止システムの開発に関する調査研究

3 メロウ・ソサエティ構想担当

03-3457-0673

- シニアネットワークによる市場創造コラボレーションに関する調査研究
- メロウ・シンポジウム2004報告書

4 情報化未来都市構想推進担当

03-3769-0021

- 横浜市における映像文化都市づくりに関する提案
- ITを活用した交通・情報体系の地域活性化の調査・研究
- 都市・産業再生の推進戦略に関する調査研究 - 幕張新都心情報化未来都市構想 -

5 IT装備都市研究事業推進室

03-3457-0671

- 多機能ICチップ等を活用した新領域ITサービスに関する研究開発・実証事業報告書
- 国内におけるICカードシステムの運用状況・課題に関する調査研究報告書
- 多機能ICチップ利用動向海外調査報告書
- 官民連携起業手続一元化事業報告書

6 広報・ニューメディア総合研究所

03-3457-0671

- 研究成果レポートNo.10～No.11
- ユーザビリティ資格認定制度に関する調査研究報告書
- 消費者に対する農産物の信頼性を確保するための新農村情報システムモデルのフィージビリティに関する調査研究報告書

平成16年度「先進的情報技術活用事業モデルシステムの開発」 における公募の結果について

平成16年7月5日
財団法人ニューメディア開発協会

当協会では、地域の住民・企業に対して情報提供や公共的サービスの提供を支援するために、自治体や地域の商工業団体、企業等が新たな事業モデルの創出や既存事業の効率化・改善化を促進することを目指す先進的情報技術を用いて実現する情報システムの開発・実証実験課題について公募を実施いたしましたところ、多数のご応募を頂きました。応募内容はいずれも興味深い優秀な提案が多く含まれておりましたが、予算の制約上から多くの方にはご要望に添えない状況でした。

採択選定にあたり、学識経験者及び専門家等による審査委員会を設置し、厳正な審査の上、下記の通り6案件を採択候補に決定いたしました。

申請者	開発テーマ
北海道 札幌市 財団法人さっぽろ産業振興財団	札幌地区目的指向ポータル開発
北海道 函館市 株式会社エスイーシー	医療・健康・観光情報共有化システムの構築
茨城県 牛久市	市民コミュニティWebサーバシステム
千葉県 市川市 株式会社クレセント	音声による地域ナレッジ問合せ検索基盤開発
大阪府 大阪市 財団法人関西情報・産業活性化センター	引越し手続きへのGPPWebリンクの適用
長崎県 佐々町	三次元GISによる地域情報発信システム



この記事は競輪の補助金を受けて実施した調査事業の成果です。

《問合せ先》
財団法人 ニューメディア開発協会
パベイシブネットワーク普及推進グループ 関川
TEL 03-3457-0673

【編集後記】

今号では、最近当協会が力を入れている分野の一つである「バイオメトリクス(生体認証)」事業を取り上げました。生体認証の手段としての顔、指紋、虹彩という3分野を、わかりやすく編集しましたが、ご理解いただけましたでしょうか？少しでも皆様のお役に立てれば幸いです。

23階の窓から外を眺めていると、最近新築された高層ビルの向こうに、遠くかなと雲が望めます。雷雲に発達した積乱雲が高層で発達を押さえられて、偏西風で横に流されて

いるのでしょう。おそらく地上は激しい雨。桜の季節から、梅雨を通り過ぎて、夏の陽ざしが降りそそいでいます。植物は急速に生育し、動物もその一員である私たち人間も多くの恩恵を受けています。夏の太陽のおかげで、寒い冬の食料を確保し、無事に次の春を迎えることが出来るわけです。近頃すこし高慢な人類は、ありがたい自然(宇宙)の営みに感謝を忘れてはいけませんね。(TI)